

新城先生が角館中へ赴任

市広報4月16号で沖縄県那覇中学校へ派遣された木元哲先生の紹介をしましたが、同様に沖縄県浦添市立仲西中学校から新城高広（しんじょうたかひろ）先生が、角館中学校へ派遣されています。

新城先生は沖縄県那覇市出身で、沖縄尚学高校から岡山理科大学、琉球大学と進み、沖縄県の教員として活躍されていました。大学時代は、専門の数学はもちろん、小学校から続けている野球（投手・外野手）に加え、スキーに熱中していたそうです。

前の学校では生徒指導と野球部の監督を担当していましたが、角館中学校では1年部に所属し、1年生と2年生の数学、研究副主任、野球部部長として頑張っています。

秋田へ来て、最初に学校のグラウンドが雪に覆われている風景に驚き、始業式で聞いた校歌に格式の高さと上品さが溢れていてとても感激したそうです。角館中の印象については、みんな挨拶と声かけが上手で、純粋な生徒がとても多いので楽しい学校だと話していました。

また、この1年間について、「全国的に学力の高い秋田県の先生・生徒・保護者の皆さんが当たり前のこととして何気なく取り組んでいることや、つぶやいていることに注目したい」と抱負を語っていました。

角館に引っ越して3週間が経った現在は、新しい趣味としてドライブを楽しみにしているそうです。「沖縄にいた頃は車で隣の県に行くことができなかったので、角館を拠点にいろんな所へ行ってみたい」と新生活に期待を寄せていました。

新城先生には沖縄の文化や平和教育、スポーツ関係などについてもご指導いただき、仙北市の教育現場で大活躍していただきたいと思います。



「先生方の雰囲気良く、地域の方々にも温かく迎え入れていただき、とてもうれしいです」と話す新城先生

仙北市スタディ —秋田から世界へ—

大腸がん治療の世界的権威として知られる、昭和大医学部の工藤進英教授（大仙市出身）特別クリニックが、4月26日、角館交流センターで開催され、約80人が参加しました。



この日、工藤教授は、自身が代表者となっている仙北市の「大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験＝仙北市スタディ」に参加された内視鏡群の方5人に、自ら内視鏡検査を行い、午後からは講演会を開催。

工藤教授は、「このスタディに参加すれば、大腸がんで亡くなる可能性を確実に減らすことができる。大腸がんは、早期発見・早期治療が大事。機会があれば、今後も、多くの方にこの研究に参加していただくため、仙北市を訪ね、自ら内視鏡検査や講演会を行っていきたい」と話していました。



JA 秋田おばこ角館地区女性部 かくのだて桜苑で奉仕活動

4月15日、JA秋田おばこ角館地区女性部（代表角館地区女性部 部長 藤枝喜久子）の皆さんが、かくのだて桜苑で清掃奉仕を行いました。

この活動は長年続けられており、入居者からは「今年も来てくれたんだね～」と喜びの声が聞かれました。

福祉を支える福祉の心、本当にありがとうございます。

